

新しく造られた者

人は女から生まれ、人生は短く

苦しみは絶えない。

ヨブ記 14:1

このヨブの嘆きを読みながら、ふ～んと考え込んでしまった。「人は女から生まれ」とあるが、私を生んでくれた母を思って再びう～んと考え込んでしまう。母は90才を超え、圧迫骨折で入院中。先日も、こんな私でも側にいれば少しはうれしいかも知れないと病院で数日付き添ったばかりだ。

「人は女から生まれ」と思おうとしても、いや違う！と強いものが込み上げてくる。人は女から生まれたものに違いはないが、どこか違う。確かに母は私を生んでくれたが、母は「わたしという人間」を生もうとは思わなかったはずだ。私もまた3人の子供の母であるが、その一人一人はそれぞれの人格を持ち、それぞれの人生を歩んでいることを思うと、その一人一人を造られ、その一人一人に期待しておられるのは、創造主なるお方なのだと心から思う。もし人が、ただ女から生まれただけの者であるなら、それがすべてなら、確かに最後に残

るのは「人生は短く、苦しみは絶えない」という嘆きだけだろう。

神はご自分にかたどって人を創造された。 創世記 1:27

主なる神は、土（アダマ）の塵で人（アダム）を形づくり、その鼻に命の息を吹き入れられた。人はこうして生きる者となった。 創世記 2：7

そうか、なるほどそうだ、と胸の奥までズドーンと響く御言葉に喜びが込み上げてくる。この私は神に造られたのだ。人は皆、ただ女から生まれただけではない、すべての人は、神の御手によって、神の御意志によって、神のものとして造られた。

にもかかわらず人は死ぬという現実。神に背き、「どこにいるのか」と問われても、神の前に出ることができず隠れるようになった人に神は言われた。

塵にすぎないお前は塵に戻る。 創世記 3:19

木には希望がある、というように

木は切られても、また新芽を吹き

若枝の絶えることはない。

.....

だが、人間は死んで横たわる。

息絶えれば、人はどこに行ってしまうのか。 ヨブ記 14:7, 10

とヨブは嘆くが、本当に、本当に、木でさえ千年も永らえるのに、神にかたどって造られた人間が高々百年ほどで死んで無になってしまうなど、そんなはずはない。

神はお造りになったすべてのものを御覧になった。見よ、それは極めて良かった。

創世記 1:31

とある。ご自身の造られた極めて良いものを、それをご自身に似せて造られたおそらく最高傑作である人間を、神がそんなに簡単に捨てられるはずがない。

そうか、そうだったのかと、ここまで書いて目が開かれる思いがした。

神に背き、神を離れ、神を知らぬ者となり、おごり高ぶり滅びに向かう人間を神様は決して見捨てず、再創造するために、イエス・キリストをこの世に遣わしてくださったのだ。

言（キリスト）は、自分を受け入れた人、その名を信じる人々には神の子となる資格を与えた。この人々は、血によってではなく、肉の欲によってではなく、人の欲によってでもなく、神によって生まれたのである。 ヨ

ハネ福音書 1:12. 13

人は自分の生まれにこだわりたがる。何処の誰であるとか、どんな血筋でどのように育てられたとか。こだわりたくないのに、親子や家族、親族のしがらみから逃れられない人も多い。そのような人々に、キリストは、血によってでもなく、肉の欲によってではなく、・・・神によって生まれるという、新しい人生を与えてくださるのだ。

キリストと結ばれる人はだれでも、新しく創造された者なのです。

古いものは過ぎ去り、新しいものが生じた。 2コリント 5:17

新しい創造である。「お前は、こんなことをしてきたではないか。お前はいつまでたってもお前のままだ。その罪だけは背負って生きろ。」などというのは人の言葉である。やがて死ぬべき人の言葉である。永遠に愛なる神は、こんな

うしようもない者をキリストによって新しくすると言ってください。

わたしたちは神に造られたものであり、しかも、神が前もって準備してくださった善い業のために、キリスト・イエスにおいて造られたからです。わたしたちは、その善い業を行って歩むのです。 エペソ2:10

キリストによって新たに造られた者は神の作品であって、善い業を行うために造られた。しかも、自力で励むのではない、神様がその善行を前もって準備してくださっているというのだ。

先日いただいた「祈の友近畿通信」を読んでいて、ある方の近況報告には驚いた。

「私は昨年11月に89才になりました。心房細動や骨粗しょうもあります。毎朝生かされていることを感謝しています。自分で出来る事でボランティアもしています。養護老人ホームへ行って歌を一緒に歌っています。お顔が明るくなるのが嬉しいです。」M

Mさんだけでなく、ご高齢の方々の通信を読んでいると、人は死ぬまで神様が準備して下さった「善い業」に、励むことができるのだと、何ともうれしく

なる。

キリストによって新しくされる時、この世のしがらみから解放されて、明日のことを思い煩うこともなく、神様が備えてくださった善い業に励みつつ、与えられた今日という日を生きる。キリストと共に永遠に生きる。やがて来るべきキリスト再臨の日、宇宙完成の日を待ちつつ生きる。こんな驚くべき喜びと平安を与えられ、この恵みをどうして黙っておられよう。